

科目名	国際金融論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	International Finance	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
ふりがな	ふかさわ やすお	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	深澤 泰郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	リーマンショックで、金融面で世界がグローバル化したことを実感し、今回のコロナショックで、モノのグローバル化とヒトのグローバル化も検証されたと思います。国際金融制度、外国為替相場の仕組みとその決定理論、国際金融システムを理解します。			
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 国際金融システムを理解することによって、世界の経済情勢がより鮮明に理解できるとともに、将来の経済、市場についての予想能力が高まる。 2. 日本経済新聞の国際関係の記事の理解度が、大幅に上昇し、社会人として求められる水準に届く。			
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に参考資料等に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行う。 経済指標等のデータに基づき理論を確認し、その上で自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。			
授業計画	(授業において配布された資料は、すべて試験の範囲に含まれる)			
第1回	イントロダクション 世界情勢と全体の概観 配布資料			
第2回	比較生産費の理論 絶対優位と比較優位 配布資料			
第3回	国際収支表の見方 配布資料			
第4回	三つの為替相場と国際金融のトリレンマ 配布資料			
第5回	スポット為替レートと先物為替レート 金利裁定式 ベーシスコスト 配布資料			
第6回	準備としての数学の復習 為替レートの決定理論 購買力平価説(1) 配布資料			
第7回	為替レートの決定理論 購買力平価説(2) 配布資料			
第8回	中間テスト 回答と解説			
第9回	国際収支の誤差脱漏と為替レート 配布資料			
第10回	マンデルフレミングモデル(1) モデルのフレームワーク 配布資料			
第11回	マンデルフレミングモデル(2) 財政政策と金融政策の効果 配布資料			
第12回	世界金融危機 リーマンショックの本質(1) 配布資料			
第13回	世界金融危機 リーマンショックの本質(2) 配布資料			
第14回	新しい国際金融規制 自己資本比率(BIS) 規制とG-SIBs			
第15回	通貨統合とユーロ ターゲットの仕組みとユーロシステムの根本的矛盾			
第16回	定期試験(持ち込み不可)、期末テスト(持ち込み可)			
授業時間外の学習	事前に資料を配布するようにしますので、該当箇所は事前に通読して疑問点があれば質問すること(0.5~1時間)。 確認のための復習をすること(0.5~1時間)。			
履修条件 受講のルール	適宜資料を配布しますが、欠席した場合は、後日研究室まで受取りに来て下さい。 原則として「欧米経済論」を履修済みのこと。			

	<p>なお、受講者のパソコン保有台数等をヒアリングし、可能ならば、授業中にパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。</p>
テキスト	配布資料
参考文献・資料	<p>「国際金融論をつかむ」橋本優子ほか2名 有斐閣 「円安待望論の罨」野口悠紀雄 日本経済新聞社 第7章 国際通貨制度の変遷 金利動向4追加資料「円安と株高の矛盾」深澤泰郎、 その他、授業前に配布するペーパー</p>
成績評価の方法	<p>中間テスト(40%)、定期試験(10%)、期末テスト(40%)、その他(10%) 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>日本では、チョコレート等の日常品、輸入車、輸入各具等の輸入製品があふれています。また、観光地には多くの外国人観光客を見かけます(コロナ騒動の前までは)。 これらの人、モノ、サービスの海外との取引の基本が国際金融です。また、国際金融論の理解なくしては、ビジネスは遂行できません。就職後にそのことを実感すると思います。</p>